

歯科先進国では診療台の中を流れる水の消毒は当たり前

その器具、本当に使っても大丈夫？

鎌田 俊 シュンデンタルクリニック院長



シュンデンタルクリニック外観



ヨーロッパの厳しい衛生基準をクリアしたドイツ製の診療ユニット



診療ユニットに還流する水や口の中に入る水、診療台清掃に使用する水、全て消毒された水が使用されている。

最近の日本歯科界を取り巻く現状については、「衛生管理」という観点が注目されています。例えば新聞等でも大きく取り上げられた歯科医院診療ユニットの中を流れる水がバクテリアで大繁殖し、汚染されているという記事（2015年8月27日付読売新聞）もその一つです。歯科先進国のヨーロッパでは診療台の中を流れる水をきちんと消毒するのは当たり前です。2003年には、次のような研究論文が発表されました。歯科医院で使用されている診療台の中を流れる水（バクテリアが繁殖している）に様々な種類の消毒薬を混ぜ、どの消毒薬が最

も消毒効果が高く、かつ人体に影響がないかという研究です。結果として、各種消毒薬の中で衛生基準を満たした消毒薬は2種類。その中の1種類は診療機器に対して損傷を与えるというものでした。結論としては、科学的に人体に影響がなく、診療機器にも影響を与えず、消毒効果が得られる消毒薬は非常に少ないということが言えます。

また、診療ユニットに接続する切削器具（歯を削る際のキューインと音がするアレです）の衛生管理にも様々な工夫があります。歯科治療の時、空気と水（先ほど述べました）を混合・圧縮し、口の中で刃物を回します。その空気にもバクテリアがいたら（実際います）どうでしょうか？。コンプレッサー（空気を送り込む機械）の中で空気を除菌する機器も製造販売されていますが、肝炎ウイルスやHIVなどの感染症患者の治療の直後に、ご自分の治療が回ってきたら、どのように感じますか。

全ての診療器具は1回毎に洗浄、消毒、滅菌の工程を経て使用する旨を、日本歯科医師会は各歯科診療機関に傳達しています。歯科医院は感染予防のため様々な工夫をしていますので、「衛生管理」という視点で歯科医院を選択することも一つの方法です。



PROFILE

かまだ しゅん 平成16年岩手医科大学卒業。
平成18年岩手医科大学口腔顎顔面再建学講座歯科麻酔分野。
平成23年岩手医科大学大学院卒業（博士号取得）。平成27年秋田厚生連雄勝中央病院（非常勤）。平成28年岩手医科大学非常勤講師。
同年函館市内にシュンデンタルクリニックを開院。
日本歯科麻酔学会認定医、日本顕微鏡歯科学会、
SJCD (Society of Japan Clinical Dentistry、歯科スタディグループ)

